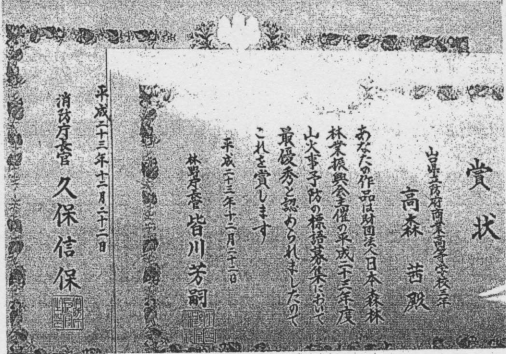




山火事予防の標語で最優秀賞
防府商高3年

たかもりあかね
高森 茜さん(17)

防府市



大切な森守る心言葉に

忘れない 山への感謝と 火の始末

2学期の初め、国語の授業で山火事予防の標語を作った。小学生の時に隣の家が火事になった。恐怖におびえながら年下の友達が無事を祈ったこと、今でも遊びに行くという大好きな大平山が火事になったら……、2歳下の弟の夢は消防士……。そんなことを頭に思い

描きながら作った。

昨年末、2411作の中から、最優秀の消防庁長官・林野庁長官賞に選ばれた。「森林は地球の肺であり、かけがえのないもの。そのことに感謝の気持ちがあれば山火事を防げると思った」と振り返る。国語は苦手だった。川柳や短歌なども「同じ言葉ばかりが浮かんであまり好きじゃなかつ

た」と明かす。「言葉」を意識をするようになったのは、好きなバンドの歌詞や推理小説で、表現の意味をじっくりと考えるようになったからだ。3年生で応募した作品では、全国読書川柳コンクールで落ち込むと いつも手に取る

本があるが3687作中、佳作(3席)に。海上保安庁の川柳コンテストでも 灯台が 海の平和を守っている 久原弘教諭(国語)は「等身

大の日常生活から、さりげなく言葉を紡ぎ出している」と評価するが、本人は「ツイッターが好きで、つぶやきが効果的だったのかも」。副賞で届いたデジタルカメラがお気に入り、「卒業までに学校で写真をいっぱい撮りたい」。(小西宏幸)

下関市消防団勝山分団
にしたみほさん(42)
西田 美保さん(42)
=下関市



被災者の心に寄り添いたい

昨年10月にあった全国女性消防操法大会に、県代表チーム(6人)の指揮者として出場、7位に入った。小型ポンプで水をくみ出し、約70メートル離れた標的を倒すまでの時間を競う。ホースを延ばす時の動作の機敏さや正確さも評価される。前回大会に続き、2度目の挑戦だった。

積んだ日々がよみがえり、悔しさが残った。だが、長男(18)から「すごいじゃん、やったね」と言われ、喜びが湧いた。鳥根県川本町出身で、結婚を機に下関市にきた。消防団に入ったのは9年前。消防団員の「ママ友」に誘われた。父親が消防団員で、幼いころから、夜中でも火災現場に向かう姿を見ていた。「男の仕事」であり、

自分には家庭もある。協力したい半面、小さい子どもを置いて行けるのか不安がよぎった。だが、夫が「せつなかの機会だから、やってみたら」と背中を押してくれた。訓練や消防器材の点検のほか、防災、救急救命の知識を学ぶため、月2回は会合に出席する。火災現場への出勤は年2、3回。被災者に毛布を掛けたり、励ましたり、後方支援が主な役割だ。各地である防災フェアを手伝うことも多く、「いろんな人と知り合いになれるのがうれしい。人見知りだったんですけど」と笑う。

東日本大震災では多くの消防団員が命を落とした。「私だったら、何が出来ただろう」。独り暮らしの高齢者を手助けするため、名簿作りなどに取り組むたいという。「少しでも被災した人たちの心に寄り添える存在でありたい」(二宮俊彦)

家事を終えてから仲間と練習を

「もっと上に行けたかも」。

秋市西田町の秋幼稚園で15 42人と保護者が土をこね、好

愛好家が 洋ランの 岩国市で 展覧会

洋ラン香り「春」の装い

岩国で展覧会

開門予定時刻 9:50 早朝前売 7:20より
ふるさとシリーズ第4戦 明日開催
きくがわ温泉
サングリーン 菊川杯

秋市西田町の秋幼稚園で15 42人と保護者が土をこね、好 青申段えこ...でも寒い!